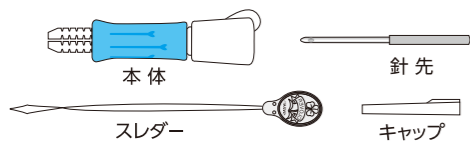


かんたん刺しゅう フリーステッチング

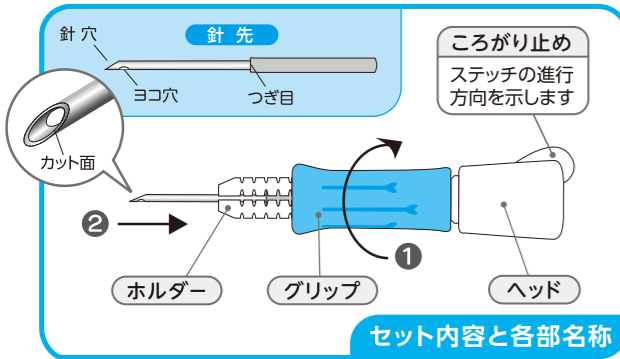
使い方説明書

57-413

内容

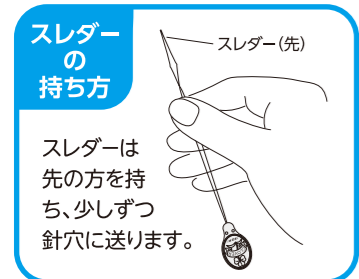


1. フリーステッチングニードルの本体に針をセットしましょう

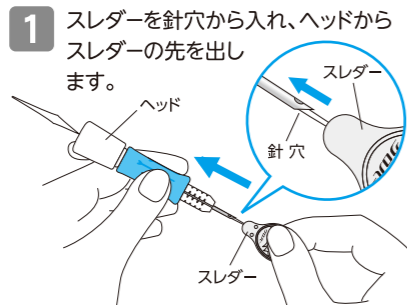


セット内容と各部名称

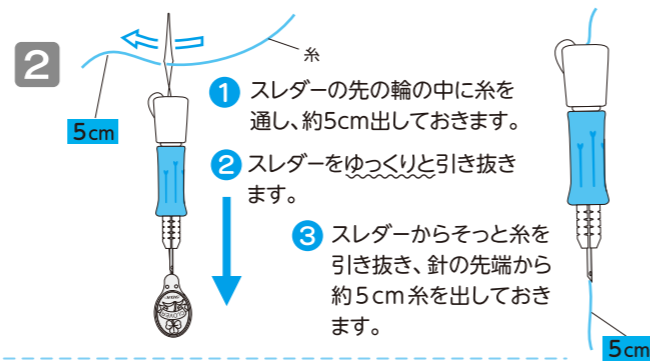
2. フリーステッチングニードルに糸を通しましょう



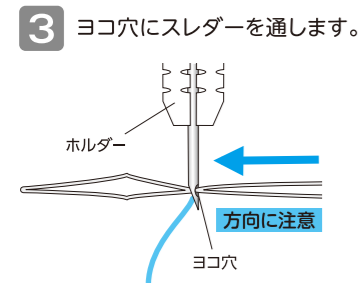
スレダーの持ち方
スレダーは先の方を持ち、少しずつ針穴に送ります。



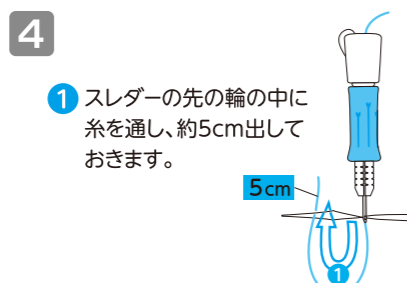
1 スレダーを針穴から入れ、ヘッドからスレダーの先を出します。



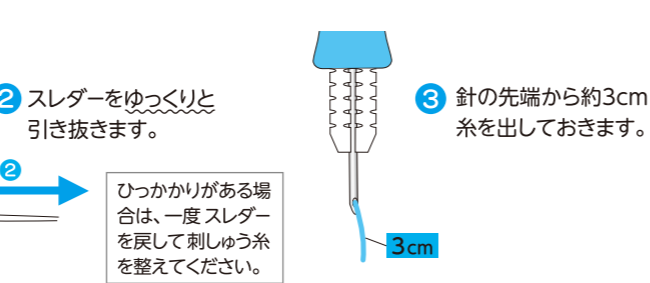
2 スレダーの先の輪の中に糸を通し、約5cm出しておきます。
3 スレダーをゆっくりと引き抜きます。



3 ヨコ穴にスレダーを通します。

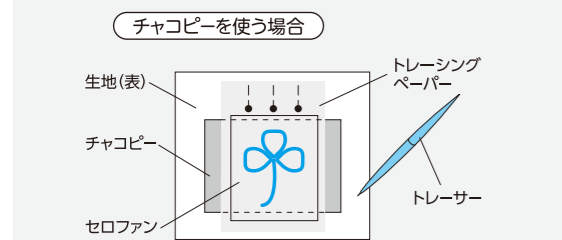


4 スレダーの先の輪の中に糸を通し、約5cm出しておきます。
5 スレダーをゆっくりと引き抜きます。

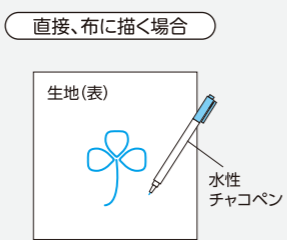


6 針の先端から約3cm糸を出しておきます。

3. 図案を写しましょう



- 1 実物大の図案をトレーシングペーパーに写します。
- 2 生地を表側にトレーシングペーパーに転写した図案をのせ、待針で止めます。
- 3 生地と図案の間に「クロバーチャコピー(片面)」を転写面を下にしてはさみます。
- 4 図案の上にセロファンを重ね、「トレーサー」で図案をなぞります。

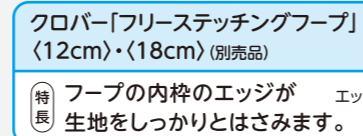


直接布に、図案を描きます。

「自然に消える」・「水で消える」水性チャコペンで描くと便利です。

4. 生地を張りましょう

生地の張りが弱いとステッチがきれいに刺せません。専用のクロバー「フリーステッチングフープ」をお使いください。



生地を引っ張り、ネジを閉めるという動作を数回繰り返し、生地をピンと張ります。生地によって、枠の跡がつく場合があります。ご了承ください。

始める前に用意するもの

- クロバー「フリーステッチングフープ」(12cm)または(18cm)
- クロバー布用強力ボンド「貼り仕事」
- 糸：25番刺しゅう糸3本取、またはそれに相当する太さのもの

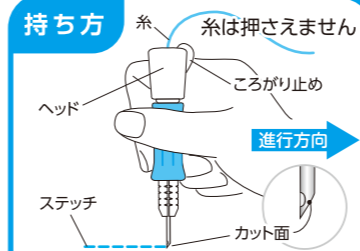


25番刺しゅう糸は、一般的に細い糸を6本まとめたものが1かせ(糸の束)として売られています。100cm程度に切り、1本ずつ引き抜いた糸を3本合わせて使います。

- 布：ギョツと織目のつまった中肉～厚手の生地
フープに張れる布のサイズは、(12cm)の場合 20cm角以上、(18cm)の場合 25cm角以上です。

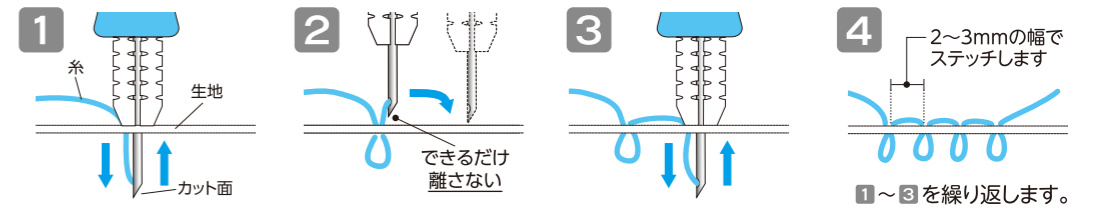
あると便利な道具
フリーステッチングスタンド(12cm)または(18cm)
フリーステッチングフープをセットすると、机の上に置いたまま刺せます。

5. ステッチを刺しましょう



本体のヘッドから出ている糸を手や物で押さえたり、引っ掛けたりしないでください。ステッチがきれいに刺せなくなります。

針先のカット面が進行方向を向くように刺し進めます。(ころがり止めを進行方向の目安にします。手前に向かって進めると刺しやすくなります)



ホルダーの根元まで刺しそのまま真上に引き上げます。

針の先端を生地からできるだけ離さず、すべらすように2針目を刺します。

そのまま真上に、引き上げます。

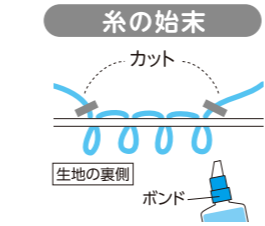
1～3を繰り返します。

針先の種類ごとのステッチ幅の目安

1本取	3本取	6本取	極太
1～3mm	2～3mm	2～5mm	3～6mm

※本品には(3本取)の針先がセットされています。別売品の針先(1本取)(6本取)(極太)もご利用いただけます。

6. 糸始末をしましょう



刺し始めと刺し終わりは、他の糸を切らないよう注意して、ギリギリのところまでカットします。(玉止めの必要なし)その後、裏面をクロバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売品)で刺した糸が抜けにくいよう接着します。

クロバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売品)の使用方法

布用強力ボンド「貼り仕事」をステッチ部分(刺しゅうの裏面)に塗り、シリコンペーパーをあて、アイロンをかけて接着します。

いろいろなステッチの刺し方

1. バックステッチ風



基本的なステッチ

針先のカット面を進行方向に合わせて等間隔で刺します。

2. サテンステッチ風

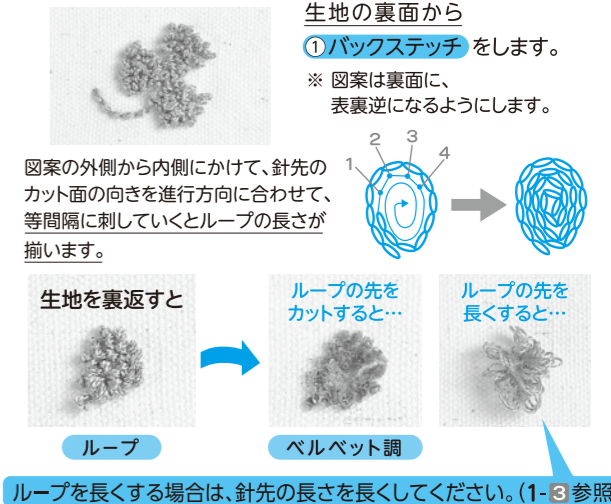


ステッチの間隔を広くします。(5mmぐらいまで)

刺し方のコツ

この刺し方の場合、針先のカット面は同じ向きのまま、刺しゅう前に生地の裏に布製の接着芯を貼ると糸は抜けにくくなります。

3. ループ



ループを長くする場合は、針先の長さを長くしてください。(1-3参照)

フリーステッチングのチェックポイント

- ステッチの糸が抜けるときには
 - 適した生地を使用していますか?
織目の粗い生地、すべりやすい生地、合成皮革、伸縮する生地は糸が抜けやすく不向きです。(絹・麻などのすべりやすい生地には、刺しゅう前に生地の裏に布製の接着芯を貼ると糸は抜けにくくなります。)
 - 専用のフープを使用していますか?
生地の張りが弱いと糸が抜けやすくなります。専用のフープをご使用ください。
 - 針先は根元まで刺して、真上に引き上げていますか? (⇒5-1)
 - 針先を生地から離さないようにしていますか? (⇒5-2)
 - 針先のカット面は進行方向に向いていますか? (⇒1-2、5-持ち方)

保管上の注意

- 必ず本体から針先をはずし、キャップをして保管してください。
- 必ずグリップをゆるめた状態で保管してください。(縮めた状態で保管すると変形する恐れがあります)

フリーステッチングのコツ

- ステッチの目が浮いたときは
 - 裏側から爪で軽くごいて目を整えます。
- 生地を破らないように刺すには
 - ステッチの間隔が短くならないように、また、同じ箇所を何度も刺さないようにします。
 - 生地が破れる場合は、針先の太さを細くしてください。(別売品の針先から選んでください)それでも破れる場合は、生地を替えてください。
- ステッチをやり直すには
 - 糸を引っ張って抜きます。一度ステッチをした部分は生地が弱り、刺しにくくなります。違う場所を刺すか、爪で生地の目を揃えてから刺します。また、一度使った糸はステッチのくせがついて刺しにくくなっています。できるだけ新しい糸を使用してください。
- 洗濯するときは
 - やさしく手で押し洗いするか、ドライクリーニングしてください。

③ 使い方を説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL.(06)6978-2277